



# “ユビキタスセンサネットワークによる情報処理”

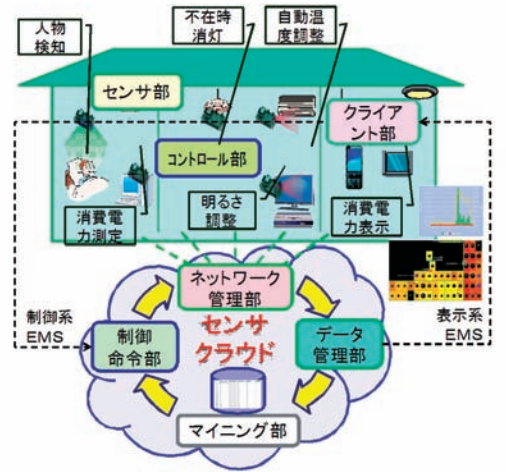
## 准教授 峰野 博史 (情報科学)

1974年生まれ、1997年 静岡大学工学部情報知識工学科卒業、1999年 同大学院理工学研究科計算機工学専攻修了、1999年 日本電信電話株式会社入社、NTTサービスインテグレーション基盤研究所配属、2002年10月 静岡大学情報学部助手、2006年 九州大学大学院システム情報科学府博士(工学)学位取得、2011年 静岡大学情報学部准教授。

### 研究概要

高度情報化社会、マイクロエレクトロニクスの発展により、ちまたには数多くの情報機器があふれ、その使われ方も複雑化、高度化してきています。当研究室では、コンピュータ同士を結びつけるための通信技術や通信を利用した新しいコンピュータシステムを作り上げる情報処理技術の創製、開発を基盤としたテーマを研究しています。特に次世代携帯電話、ホームネットワーク、クラウドコンピューティング技術の側面からこれからのモバイル社会の実現を目指す『異種ネットワーク連携グループ』と、世の中のいたるところにセンサ/アクチュエータノードを設置して情報を発見したり、制御に反映させたりすることで、人間だけでなく地球環境へも優しい情報化社会の実現を目指す『ユビキタスセンサネットワークグループ』の2グループによって、次に来るべき新時代の情報化社会を発展、支えるような研究を世の中の新しい動きを先導して進めています。

キーワード:ユビキタスセンサネットワーク、コンシューマ・デバイス&システム



### メッセージ

「自主性とリーダーシップで、新しい分野を切り開いてほしい」

研究活動を通じて、従来の問題がどこにあり現在どういう状況なのか、それらをいかに打破していくか、そして社会でどのように役立っていくかを提案し、学生自ら実体験する形で指導しています。また、研究室における様々なイベント、企業との共同研究打合せを通して、自主性を持ち、かつ周りの人を巻き込みながら、新しい分野を切り開いていくことができる人材を育成したいと考えております。研究テーマでは、ICT (Information and Communication Technology) を活用したグリーン化「Green by ICT」に関して、各家庭やオフィスで異なる生活環境へ適応的な導入ができ、生活者の行動様式や好み、自然との共生をも考慮してカスタマイズできるような適応型EMS (Adaptive Energy Management System) の研究を進め、先導的スマートキャンパス化の促進と国際連携等でのイニシアチブをとって更なる学術研究機能の拡充を目指します。

### 【主な研究業績】

**受賞歴:** 電子情報通信学会活動功労賞(2009)、第6回船井情報科学奨励賞(2007)、NTTサービスインテグレーション基盤研究所所長表彰(2001)他、  
**外部資金獲得状況:** 科学研究費補助金 若手研究(A)「高精密農業を可能とするマルチベンダセンサグリッドの実証的研究」(2009~2011)、科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「多様な大規模センシングデータ間の時系列相関分析技術の研究」(2010~2011)、文科省 知的クラスター創成事業(第二期)「自律分散協調ユビキタスセンサネットワーク」(2007~2011)

**委員等:** 情報処理学会 コンシューマ・デバイス&システム研究会(CDS)幹事(2010~)、マルチメディア通信と分散処理研究会(DPS)運営委員(2009~)、電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)専門委員(2009~)、情報処理学会インターネットと運用技術研究会(IOT)運営委員(2008~2009)、情報処理学会高品質インターネット研究会(QAI)運営委員(2005~2007)、電子情報通信学会常任査読委員(2008~)、各種論文誌幹事・編集委員・TPCメンバ他

### 著書・訳書:

- 1) Chapter 33 in Radio Communications (INTECH, 2010)、
- 2) Chapter 20 in Intelligent Automation and Computer Engineering (Springer, 2009)、
- 3) 分散システム原理とパラダイム第2版(ピアソン・エデュケーション, 2009)、
- 4) 802.11無線ネットワーク管理(オライリー・ジャパン, 2003)

若手重点研究者